

お魚触ったよ!! ぎよしよく体験



地元で採れた魚に触れ、魚に親しんでもらおうと、城辺保育所で「ぎよしよく普及イベント」が行われました。この日、水揚げされた約7kgのカツオを始め、数種類の魚が魚触コーナーに設置されると、園児たちは、次々に持ち上げるなどして、その肌触りに大興奮。その後、年長組は、人形を使ってカツオの模擬解体を体験。続いて行われた本物のカツオ解体ショーでは、真剣な眼差しで職人の手さばきを見つめていました。

昼食には、カツオをふんだんに使ったカツオカレーが登場、園児たちは「おいしい」と満足そうに頬ばっていました。

平成20年10月19日(日)は「愛南町長選挙」の投票日です

明るい選挙、きれいな選挙、みんなそろって投票しましょう

7月17日に開催された選挙管理委員会において、平成20年10月30日任期満了の「愛南町長選挙」は、平成20年10月14日告示、19日を投票日とすることに決定されました。

詳細については、広報「あいなん」9月号に掲載しますが、詳しくは、選挙管理委員会(TEL 72-1211)へ問い合わせください。

愛媛大学南予水産研究センターの見学会をします!

日時 8月23日(土) 10時〜

場所 西海支所内愛媛大学南予水産研究センター

問い合わせ 詳しくは愛媛大学南予水産研究センター(TEL 82-1022)へ問い合わせください。

「愛大南水研から」ことば



こんにちは。南予水産研究センター生命科学研究部門の小林亨です。今年の2月1日付けで、農水省の独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所から愛媛大学に異動してきました。養殖研究所は、三重県志摩地方にあります(私は、伊勢市近郊の支庁にいました)。隣の部屋の病理、餌料の人たちは頻繁に愛媛県へ出張していましたが、残念ながら、赴任前の私は愛媛県には大学院生の頃に松山市で開催された学会の際に訪れただけでしたので(しかも初めての学会参加でした)、私の愛媛県に対するイメージは、「坊っちゃん道後温泉」でした。今回、当センターの専任となり、初めて南予地域、愛南町を訪れますと、私の「愛媛県のイメージ」は一変しました。それは、南予地方、特に愛南町の自然環境の素晴らしさ、食材の良さ(品質、値段共に)です(こんなところが、日本にまだあったのか、と言うのが正直なところ)です。隠れた自然環境と食の宝庫、愛媛県南予地方、愛南町です。早速、知り合いに宣伝しています。また、研究材料、環境の素晴らしさ(魚介種、珊瑚礁域、盛んな養殖業)に加え、センター施設は町のご協力もあり、全国の臨海実験所の中でも屈指の設備となっています。私は魚の性決定に関わる研究をしており、その成果を水産有用魚種に還元したいと考えていますので、このような環境は、かなり魅力的です。この素晴らしい環境を活かして、前々回の広報紙で、センター長の山内先生が述べられている、当センターの主な目的のひとつである「生命科学の最先端の研究成果を技術として生産現場に応用し、・・・」の分野で主に貢献していきたいと考えています。私には実験手法の関係で、普段は松山のキャンパスにいますが、海産魚を使った実験、サンプリングは、愛南町のセンターで行います。今後ともどうぞ、よろしくお願ひします。